

# 本庄早稲田能

能羽衣

シテ 香川 靖嗣

ワキ 高井 松男

ワキツレ 野口 能弘

御厨 誠吾

後見 中村 邦生

粟谷 浩之

大鼓 柿原 崇志  
大鼓 観世 元伯  
小鼓 曾和 正博  
笛 一噌 幸弘

地謡

塩津 圭介  
内田 成信  
金子敬一郎  
佐々木多門  
長島 茂  
大村 定  
出雲 康雅  
粟谷 明生

狂言 二人袴

親 野村 万作

舅 野村万之介  
太郎冠者 月崎 晴夫  
野村 萬斎

後見 高野 和憲

半能 石橋

シテ 塩津 哲生

ツレ 狩野 了一

ワキ 高井 松男

大鼓 柿原 崇志  
大鼓 観世 元伯  
小鼓 曾和 正博  
笛 一噌 幸弘

後見 香川 靖嗣

中村 邦生  
佐々木多門

地謡

大島 輝久  
長島 茂  
粟谷 浩之  
大村 定  
粟谷 充雄  
出雲 康雅  
内田 成信  
粟谷 明生

チケット取扱 8月10日より

- 本庄市
  - 本庄市民文化会館 TEL: 0495-24-2841
  - マルゴレコード駅北通り店 TEL: 0495-22-4356
  - マルゴレコード前原店 TEL: 0495-24-5503
  - かしわ楽器店 TEL: 0495-72-1625
- 上里町
  - 植村書店 TEL: 0495-33-5976
- 美里町
  - 魚つね商店 TEL: 0495-76-0057
- 神川町
  - 田村薬局 TEL: 0495-77-2027
  - 新井商店 TEL: 0274-52-2268

開場: 午後3時30分  
開演: 午後4時30分  
TEL: 0495-24-2841

入場料 2,000円(全席自由)

開催日時 平成20年11月1日(土)

会場 本庄市民文化会館

主催: 本庄市・早稲田大学 協賛: 本庄市民文化会館・財団法人本庄国際リサーチパーク研究推進機構・早稲田大学デジタルキャンパスコンソーシアム会員企業(ソニーブロードバンドソリューション株式会社・株式会社東和エンジニアリング・財団法人日本漢字能力検定協会・日本電気株式会社・パナソニックSSマーケティング株式会社)



昨年秋、早稲田リサーチパークで開催された『祭禮錦・能装束—山口憲の世界—』展は、地元の人々に大きな感銘を与えました。それは、染織家・能装束研究家山口憲氏が、本町の山車で使われる祭禮錦および人形装束の復元にあたられ、その完成を記念する展覧会だったからです。本町の山車人形が能『石橋』の装束であることから、今度は、本庄で能『石橋』の公演を行いたいとの期待が膨らみました。これを受けて企画されたのが、この「本庄早稲田能」です。

今回は、能の代表曲とも言える『羽衣』、面白おかしい狂言の定番『二人袴』、そして勇壮華麗な半能『石橋』を演目に据えました。使用する能装束の一部は、山口憲氏の手で作られたものです。香川靖嗣、塩津哲生、野村万作、野村萬斎ほか、当代最高の演者によって行われる「本庄早稲田能」。本庄市と早稲田大学の共催によって、いよいよ実現します。

能(喜多流)  
《羽衣》(はごろも)

駿河の国美保の松原で漁師白竜が見つけた天の羽衣。白竜は天女と押し問答の末に羽衣を返し、天女は返礼に舞臺を舞いつつ天上界に戻る。悲嘆にくれながらも毅然とした天女のたたまない、宝物を手に入れながら欲とモラルの間でたゆたう白竜の心情、天女の舞臺と、面白づくしの能の代表曲。シテ香川靖嗣は喜多流を代表する名手の一人。

狂言(和泉流)  
《二人袴》(ふたりばかま)

聳が舅の家に初めて挨拶に行く「婿入り」の日、新婚の息子が心細がるので、平服のままノコノコ付いてきてしまった父親。舅の家の太郎冠者に見つかってしまった、屋敷に請じ入れられたが、晴れ着の袴は一着しかない。さあ困った。人間国宝野村万作の父、今をときめく野村萬斎の聳は、まさに絶妙の配役。

半能(喜多流)  
《石橋》(しやつきよう)

寂照法師が、宋国の清涼山に赴き、文殊菩薩の浄土への架け橋を訪れると、対岸に二頭の獅子が現れ舞い狂う。喜多流初代七大夫が寛永六年(1629)に復曲した秘伝の能で、喜多流ならではの勇壮華麗な演技が見物。ただけしくも優美な獅子舞のシテは、喜多流の重鎮塩津哲生。共に舞うのは同流若手の旗手狩野了一。



塩津 哲生 しおつ あきお

シテ方喜多流能楽師。1945年生。故塩津清人の長男。重要無形文化財総合指定保持者。十五世宗家喜多実(きんたみ)に師事。1990年より国立能楽堂養成課シテ方主任講師を務める。1994年より今日まで喜多流後継者の指導を一手に担う。2003年「塩津哲生の會・正和能」を立上げ意欲的な舞台活動を行う。2004年ドイツ・マイニンゲン博物館における同演劇博物館と早稲田大学演劇博物館の姉妹演博提携記念行事にて能講座を勤める。2007年芸術選奨文部科学大臣賞、第29回観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。十四世喜多六平太記念財団理事。



野村 万作 のむら まんさく

狂言師。1931年生。重要無形文化財各指指定保持者(「人間国宝」)。祖父故初世野村萬斎及び父故6世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。狂言の秘曲である『釣狐』の演技で芸術祭大賞を受賞した他、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞等多くの受賞歴を持つ。国内外で狂言普及に貢献し、ハワイ大・ワシントン大では客員教授を務める。古典はもとより新しい試みにもしばしば取り組み、代表作に『月に憑かれたピエロ』『子午線の祀り』『秋江』『法螺待』等がある。著書に『太郎冠者を生きる』(白水社uブックス)、『狂言三人三様・野村万作の巻』(岩波書店)がある。



野村 萬斎 のむら まんさい

狂言師。1966年生。野村万作の長男。重要無形文化財総合指定者。祖父故6世野村万蔵及び父に師事。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言・能公演はもとより、現代劇や映画の主演、古典の技法を駆使した作品の演出、NHK『にほんごであそぼ』」に出演するなど幅広く活躍。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞等を受賞。著書に『萬斎でござる』『MANSAI◎解体新書』(朝日新聞社)、『狂言サイボーグ』(日本経済新聞社)、『狂言三人三様・野村萬斎の巻』(岩波書店)等がある。世田谷パブリックシアター芸術監督。



香川 靖嗣 かがわ せいじ

シテ方喜多流能楽師。1944年生。故香川順吾の孫。重要無形文化財総合指定保持者。十五世宗家喜多実(きんたみ)に師事。1985年芸術選奨文部大臣新人賞、1987年大阪文化祭賞受賞。1986年塩津哲生と結成した「二人の会」を中心に充実した舞台成果をあげている。2003年日越外交関係樹立三十周年訪越公演参加。2007年には「卒都婆小町」を披く。第29回観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。能楽協会常務理事。十四世喜多六平太記念財団理事。「香川靖嗣の會」主宰。